

## 第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 平成30年2月7日(水) 午前10時～午前11時30分
- 2 場所 青梅市役所 議会大会議室
- 3 出席委員  
森田委員、加藤委員、小澤委員、赤尾委員、徳武委員
- 4 議事  
協議事項  
(1) 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略における主要事業の進ちよく状況について

(配布資料)

資料1 主要事業の進ちよく状況のまとめ

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>(開会)</p> <p>平成29年度の第2回目の懇談会を開催させていただく。</p> <p>先日、2度ほど大雪に見舞われた。4年前に比べれば、今回の方が量は少なかったかと思うが、青梅線を含みまして都内の交通がマヒしていた。また、大寒波の影響で寒い日々が続いている。</p> <p>今の話題は、平昌冬季オリンピックである。日本を代表する選手団には活躍をしてもらいたい。いよいよ今週9日から開幕ということで、また、パラリンピックの方も、1か月遅れの3月9日に開幕する。</p> <p>これが終わると2020年東京大会となる。</p> <p>1964年以来の東京開催ということで、当時は隊列を組んで聖火リレーが行われたり、女子バレーボールの東洋の魔女など言い出せばきりが無いが、次の大会についても個人的には大変楽しみにしているところである。</p> <p>この大会の開催に向けて、新たな国立競技場や臨海部の競技施設の建設、語学関連のボランティアなどの育成、心のバリアフリーなど、現在、様々なことが取り組まれている。</p> <p>大会開催を契機として、その影響が青梅にも及んで、経済が活性化されるようなことを期待している。</p> <p>それでは、次第に従い進めさせていただく。</p>
会長	<p>2 協議事項</p> <p>(1) 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略における主要事業の進捗状況について</p> <p>本日の進め方については、この後、資料をもとに基本目標に沿う形で事務局から説明をする。</p> <p>市の事業は、この時期になると、事業がどのように展開されてきて、それにより新年度はどのように展開していくか、そのためにどのようなことに予算を投じていくかなど、事業の動きが見えてくる。</p> <p>委員には、現在の市の取組状況について、ご意見やご質問、ご感想、また、日頃委員が見聞きしたこと、他の好事例など、どんなことでも構わないので、ご発言いただきたい。</p>
事務局	<p>(基本目標1について資料を用いて説明)</p>
会長	<p>事務局から説明があった。それでは、ご発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>先日、男女平等推進計画懇談会があり、子育て世代包括支援センターの設置</p>

<p>子ども家庭部長</p>	<p>について報告があり、委員に子ども家庭支援センターに携わる方がいて現在連携を密にして進めていっているとの話があり、良い取組だと感じる。ハコものより制度を柔軟に活用していきっており、息を長く続けていってほしい。</p> <p>子育てモバイルということで、デジタル世代への対応をしており、非常に良い取組である。利用するためのアプリをダウンロードするなど、初動を促す取組というの はどう考えているか。</p> <p>現在、導入に向けた検討を進めており、実際の導入は9月から10月ころになる。そこに向けて広報や各センターを訪れた方などできるだけ多くの方に利用していただけるよう周知を図りたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>情報端末のようなものは使ってもらわないと意味がない。どんな政策でも同様だがわからないから利用されないということがあるので、PRの仕方が重要となる。</p>
<p>委員</p>	<p>大事なことは、利用者へのサービスの向上といった意味で、現在危惧されているのは、保健師不足が挙げられているが、青梅市では充足しているのか。</p>
<p>子ども家庭部長</p>	<p>今年度から子ども家庭支援センターにも保健師を配置している。今回の子育て世代包括支援センターを始めるに当たり、専門の保健師をコーディネーターとして配置している。充足されているかという点では難しい面もあるが、臨時の保健師をお願いするなど、できる限りの対応を図りたい。</p>
<p>委員</p>	<p>進めていく中で、過渡期ということもあるので、利用者の声などをよく聞いて、不足するようであれば徐々にでも対応していきしてほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>サービスを提供する側ではなく、サービスを利用する側の意見が重要だと思うので、意見を酌んでもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>学力向上について、先生は一生懸命やっており、学校も目標設定し、それに向けて努力していると感じる。一方で、先生方に話を伺うと親の方に課題があると感じることがある。子どもにどのように合理的に勉強をさせるかについては、家庭の意識にある。自宅で勉強をするように圧をかけたり、ゲームを取り上げて勉強をやらせることでできるようになるかという点、そうではない。他の例では、兄弟姉妹の上の子が勉強ができると、弟妹もできるというケースが統計上ある。これは自宅での合理的な勉強の仕方をわきまえており、その仕方を下の子にも応用していく結果それなりの成績を残すことができる。</p> <p>子どもに勉強を教える以前に、親御さんにどうやったら子どもが勉強するようになるか、できるようになるかなどを講習などの形で、教えていくことが必要なので</p>

委員	<p>は。学校では、子どもに教えることしかできないため、厳しい壁に当たっている。</p> <p>教育現場では、実際、親御さんと面接をして色々と話をしたいという場合がある。家庭での意識を高めてもらいたいと思うが、教育現場は家庭に入り込めない。講習会に来てもらいたいが、来るようならいいが、結局来てもらいたい方こそ来てくれない。そうするとそれ以外の場所で勉強する動機づけができるような場所づくりを積極的に取り組むことが重要。</p> <p>子どもたちもロールモデルを見ると、下の子も頑張れる。しかし、核家族化で手本になる人がいないまま勉強をしないというような子どもが増えている。こういう勉強の仕方がある、こういうふうになれるなど、ロールモデルの上級生を見られるような機会があると家庭の補完になるのでは。子どもをどうやる気にさせるかが難しい。</p>
委員	<p>全国学力・学習状況調査の対象は。</p>
教育長	<p>小学校6年生と中学校3年生全員が対象である</p>
委員	<p>青梅の学力がなぜ低いのか疑問を感じる。青梅の教員は一生懸命やっていると思う。企業でも優秀な人材というのは、田舎から東京に集まる。学力の高い生徒はどこにでも存在していると思う。東京の小・中学生は私学のいい学校に流れているのではないかと思う。そのような影響はいかがか。</p>
教育長	<p>全体的な転入・転出は他の地区に比べて青梅市は少ない。大企業などの転勤者が少ないということがあると思われる。場所によっては、1年間で2～3割の生徒が世界中から行ったり来たりしているような小・中学校がある。その点青梅市は少ない。また、青梅市は学区が固定なので、同じ環境の中の児童・生徒が6年間あるいは9年間一緒に生活するため、平行移動の形となる。そういったなかで、他の地区との交流が少ないなかで、一定程度のなかで満足して卒業していくことから、トップクラスの学力が他地区より低く、全体的に学力の低い子が多い。</p> <p>家庭学習について言えば、家で全く勉強をしない子の割合が、小学校で15%、中学生で30%近くが予習復習をしていないという統計がある。</p> <p>教育委員会から、「家庭学習のすすめ」などを配布しており、これに対応している家庭はしっかりと取り組まれているが、印刷物を見ない、子どもに対して放任的な家庭は、家庭学習時間がない。</p>
会長	<p>基本的には教える人がいるわけだが、昔は兄弟姉妹が多かったが、今は1人、2人という状況にある。例えばサタデースクールのようなところで、兄姉役の子がいて、下の子を見てあげるようなことができるといいと思うが。</p>

委員	<p>そういったことが大事だと思う。子どもは教員よりも歳の近い者の話を聞く傾向がある。それは大学生においても同様である。やはり歳が近く、自分が経験したばかりの事を伝えられる人たちの話を聞くのは非常に重要。</p> <p>以前は学びあいということも言われており、できる子ができない子が教え、クラス全体で底上げを図っていた。</p> <p>そういった形であれば人的資源はたくさんある。実施のためには最初のセッティングが非常に大変ではあると思う。</p>
委員	<p>この話は子育て世代にも同じことが言える。子育てモバイルの導入により自治体とのコミュニケーションは図れる。子育て世代同士が悩みを相談する機会があるとより良いものとなる。</p> <p>他の自治体では、このようなセンターの近くに子育てひろばという場所を設けて、そこは誰でも子どもを連れて遊ばせることができる。そういったものがあれば、同じ境遇の方たち間で相談ができる場となる。</p>
委員	<p>青梅は東京の一部であるが全国よりもレベルが低いことについて愕然とする。以前に教育関係の方に聞いた話では、地方の子どもたちは、東京や大阪など、都市部の大学に行くということが非常に目的意識化されて勉強するエネルギーとなっている。都市部の大学に行けないことは、落ちこぼれとの意識を持っている。そのため勉強を頑張れるし、クラスの中にもそのような雰囲気がある。</p> <p>青梅はそのような感覚がなく、東京の大学は最高学府であり、受かって入れるところに入ればよい。自宅を離れてまで大学に行き、それができないとレベルの低いものになりかねないというような目的意識が希薄だと思う。</p>
会長	<p>続いて基本目標2について事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(基本目標2について資料を用いて説明)</p>
会長	<p>事務局から説明があった。それでは、ご発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>今回の女性活躍推進事業については2回目となり、リピーターの方がかなりいると聞いている。こういったことは、教育と同様浸透していくのは大変なことであり、雇用側の理解、本人たちのやる気が大事である。今後も、継続して行ってほしい。</p> <p>修了者というロールモデルができ、自己啓発・自己改革をする女性が増え、周りの理解が進んでいくことによって、女性が働きやすい構造になっていく。</p>
委員	<p>日頃感じていることとして、少子化と労働人口の減少というなかで、男女関係なく</p>

	<p>働く機会をつくろうという考えがでてきた。家庭のなかで男性がいかに協力するかが大事だが女性しかできない子育てもあり、女性の負担が多い。子育てが終わり、ある程度子どもたちが成長していくと、介護の問題がでてくる。介護についても女性の方に負担がいつてしまう。子育てや介護を幅広く見てみると、やはり家庭のなかだけではできないところがあるので、自治体なり企業なりが手助けをして、女性が働き続けられるような環境づくりが必要だと思っており、なかなか進んでいかない。女性の活躍推進も必要だが、まだ色んな面で整備が必要である。</p>
会長	<p>観光戦略で言えば、ビジネスとして目は向いていると感じている。また、男女平等に仕事をして国を支えていこうということも、かなり変わってきていると感じる。</p>
委員	<p>変わってきていると感じる。主婦が主夫になっているなど、そういった理解が進んできた。色々な働きかた、やり方があるなど、個人の選択を大切にする社会が進めば女性もやりやすくなっていく。また、働きすぎの男性を家庭に戻すことも大事である。やはり日本全体の働き方を考えなければいけない。若い方を見ていると意識が変わってきている。自分の時間を大切にしたい。それをできる職場を選んでいる。そのような傾向を念頭にした政策づくりが必要になる。</p>
委員	<p>女性活躍は国が積極的に進めている施策で、それが市町村単位で取り組まれているということで、商工会議所で女性リーダー養成講座を行った。女性社員を集めて、少し高度な仕事の仕方を講習するというものだった。それに対して、声をかけたが誰もやりたいと言わなかった。私は消極的だと感じたが、そうではなく、複数の女性社員がいるなかで、自分が手を挙げることで「偉くなりたい」といった見られ方をすると考えてしまうようだ。また、指名をすると「あの人をリーダーとして推薦した」となる。講座を企画する時点で男目線で行っているため、女性の心理まで目が届いていないと感じた。</p>
委員	<p>女性の活躍というと、女性同士の足の引っ張り合いというのがある。もちろん男性でも言えることだが。そういった難しさがあるので、女性側の意識が変わらないとこういったことを推進するのが難しい。女性同士でも平気で口に出せるようでないといけない。</p>
委員	<p>働き方改革として長時間労働の是正などに取り組まれており、企業に浸透してきている。また、男性職員の育児休業なども目標値を決めて取り組まれているところもある。企業組織において徐々に意識がそういった方向に進んできているように感じる。</p>
会長	<p>今の方々は、共稼ぎでないと生活にゆとりがないという感覚のようだ。帰ってどの</p>

	<p>程度家事をやっているかはわからないが、比較的若い世代の方が、早く家に帰っているように感じる。世の中全体が残業の圧縮などにより、各企業が仕事を見直して早く帰るような傾向にはなっている。</p>
委員	<p>大きい会社はいいが、中小、零細企業まで浸透していくといいが、難しい部分もあり、社会全体の意識が変わればいいが時間がかかる。色々な意味で権利擁護できるようなシステムがあればいいと思うが。</p>
委員	<p>青梅の観光は奥多摩町と一緒にあって、青梅以西と奥多摩町とが、運命共同体で色々なことを考えていくことが重要。青梅だけで考えてしまうと、どうしても東のことにしても一緒に考えるため、割り切りが難しくなる。奥多摩町と共同して意識の共有化ができるとうい。</p>
会長	<p>目的地があって、そこに行くために鉄道があるので、青梅と奥多摩とが連携してお互いにやっていくこと、双方が双方のために頑張ることをしないと活性化はできない。</p>
委員	<p>青梅の魅力は自然と空気と水と山などたくさんあり、週末は山ガールや登山客が多い。青梅マラソンなども含めて言えるのは、瞬間的には人が集まってきているが、そこで不足しているのが宿泊施設だと感じる。観光地と宿泊施設はセットだと思っており、市内にもあることはあるが少ないと思っており、青梅に観光に来て施設があれば泊まってゆっくりしていこうかという客がいるはず。現状は通過点になっている。</p>
委員	<p>立川のホテルに宿泊して青梅マラソンを走る人は大勢いらっしゃる。宿泊施設を探そうとするとそのようになる。話を聞くと市内はすぐにいっぱいになるようだ。</p>
会長	<p>大体青梅線沿線の宿泊施設に泊まっているようだ。</p>
委員	<p>観光客は大勢訪れていると思うが、結局宿泊となると外に流れているのか。</p>
委員	<p>おくたま路やかんぼの宿は集客は好調だと聞いている。ということは、少ないから集中しているということが言える。</p>
委員	<p>施設があれば泊まる人がいるのでは。</p>
委員	<p>インバウンドを含めるとこれからは可能性があると思う。</p>

委員	2020年にオリンピック・パラリンピックがあると、都内の宿泊施設がパンク状態になると思うので、こちらで泊まって観戦をすることも考えられる。
会長	正確な情報ではないが、立川くらいまでは外国人の宿泊需要があるようだ。料金も上がっている。予約が取れないうえに高くなっている。そういう意味ではチャンスなのかもしれない。
事務局	続いて基本目標3について事務局から説明をお願いしたい。
会長	(基本目標3について資料を用いて説明)
委員	事務局から説明があった。それでは、ご発言をお願いしたい。
委員	新しくできる生涯学習施設というのは、高齢の方を含む勉強の場になると思うが、こういったところにもサタデースクールのような若い方の利用は予定しているのか。そうなれば多世代交流ができて良いのではと思うが。
教育部長	新生涯学習施設については、市内の4つの施設の機能を統合させる。若い世代に関連しては、子育てひろばを設置する予定である。基本的なコンセプトとしてにぎわいの創出するような建物ということで、1階ロビー部分は自由に開放し人を集める施設としたい。
委員	ある講演で、フランスにはシャッター通りがないと言っていた。フランスのまちづくりの話で、車を都市部に入れずに、離れたところに駐車場をつくり、外部から来る人はそこに車を停めさせて、トロリーバスのような路面電車で都市部に人を入れてくる。都市部は、道路が公園化されているので、この中では地域の方も外から来た方も好き勝手なことをしている。空間活用を自由にしている。私たちが車を通すために、いかにスペースを犠牲にしてきたかということがテーマだった。 また、別の話として、これからどういう施設が市民にとって必要となるかという話で、色んな意味での公園が必要になる。都市住民はマンション住民になっていき、庭というものがなく、部屋の中で生活をするようになる。どんな良いマンションに住んでいても、休みの日には外で風にふかれよう、芝生で寝転がろうといったことを要求してくる。立川は昭和記念公園があり、都市部の自然回帰な欲求を満たすオアシスになると言われていた。 青梅がどうかと考えたときに、東京都は自然公園ビジョン計画を持っており、公園だけど自然、昭和記念公園は人間が造って維持管理している公園。自然公園という概念を持ち込んで、自然公園としてどうイメージするか、発展させるかということができれば東京都はそれに対して、予算を投じることができる。自然公園とし

	<p>て見たときに、何が不足していて何が売り物かということが見えてくる。より自然に近い公園というものが、いずれは都市部の人たちの大きなオアシスとして、要求されるものになっていくのではないかと思う。</p> <p>そういったなかでも、ハコものは要求されていないという話も聞いた。日本はハコものだらけであり、人を呼ぶならハコものはやめて真っ平らにして市民に開放すれば一番喜ばれる。そういった20世紀の視点から21世紀の視点に見直さなければいけないと思った。</p>
会長	<p>幸せとか豊かさといったことが、自然のなかで過ごすことにあるのではないか。ビルに囲まれてあくせくと働く生活から逃れるということかもしれない。</p>
委員	<p>そうするとやはり意識改革からとなる。そういった時間がとれるように働き方ができないといけない。すべて関連してくる。</p>
会長	<p>そういった意味では青梅は絶好の素材がある。</p>
委員	<p>東京の自然公園ビジョンのとおりやってくれば、とてもいい場所になり、都心に住みたい方が週末きてくださるのではと思う。来てもらうという事では共通性はあるが、観光というものとは異なっており、もう少し広義に捉えないといけない。</p>
会長	<p>週末に山歩きのスタイルをした方を大勢見かける。若い方から経験を積まれたご年配の方まで。例えば青梅駅の上からハイキングコースができていたりするので、そういったコースも効果的に紹介できるともっとたくさん来ていただけると思う。</p>
委員	<p>公園のように訪れるには少し遠いという場合もあるので、宿泊の話につながっていく。若い方に来ていただくには、最初のチャンスが必要となる。以前学生の合宿先を探していた時に、秋田県では調査活動をする県外の大学生に、一人一泊2,000円の補助をしている。秋田まで行くのに費用がかかってしまうので、2,000円があっても学生にとっては負担であるが、そういうようなきっかけがあると、学生に選ばれるようになる。現金補助が難しければ、案内役・指南役をつけていただくことでもいいと思う。民泊を提供してもらえるなどもいい。ホストタウンとしてドイツから迎える際も口コミで広がっていきやすい。最初はボランティアで英語が話せる人をつけるような。</p>
委員	<p>御岳山の宿坊も外国人の利用が増えてきているようで、平日来てくれるということもある。</p>
委員	<p>海外の方は長期休暇がとれるので、日本の別のところを周っていても、青梅でも</p>

<p>会長</p>	<p>宿泊をしていってもらふ余裕があると思う。</p> <p>やはり、それにはそれを受け入れる受け皿も必要となる。</p>
<p>委員</p>	<p>先日友人が青梅を訪れたと聞いた。目的はロッククライミングということで、良い岩場があるのでよく来ているようだ。しかし、車できて車で帰ってしまっている。御岳山も結構来る方がいて、その方も立川に泊まっていると聞いた。</p> <p>青梅に目的をもって訪れている人は結構いるので、合宿も含めて全国的なネームバリューとなるような、聖地となれば良いと思う。カヌーを売りにしてもいいだろうし。合宿をすればまた戻ってくることも考えられる。合宿は定着しやすい。</p>
<p>会長</p>	<p>全体を通じて何かご意見などあれば発言をお願いしたい。</p> <p>よろしければ、本日の協議事項はこれで終了とする。本日の意見については、総合戦略の推進が図れるよう事務局の方で対応してほしい。</p> <p>その他として事務局から何かあれば。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度の開催については今回で終了となる。</p> <p>新年度の開催については、時期がきたら連絡をする。</p>
<p>会長</p>	<p>以上で本日の議事はすべて終了した。</p> <p>以上をもって、第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とする。</p> <p>(閉会)</p>